

○この状況下で先生方も不安ななか、いつもよくみてくださり本当に有り難うございます。ご迷惑をお掛けしていることは数え切れない程あり申し訳ない気持ちもいっぱいですが、大変、日々助かっております。病院でもコロナの疑いの患者さんも日に日に減ってきて、ピリついた雰囲気も少し和らいできたかなというところですよ。気候も緑の香り良い風が家にも窓を開けると吹き込んできて、コロナの終息に向けて希望のような風を感じられます。家ではツバメが巣を作ろうと玄関上にせっせと泥と細くて短い枯れ木をせっせと運んでいましたので、いつ出来上がるのか楽しみにしていたのですが気が変わったのか、家を作るのにはお眼鏡がかなわなかった様で途中で家づくりはやめてしまいました。と、余談ばかりすみません。そして毎日欠かされることのない HP や、いただきましたお手紙も心から感謝しております。一緒に読んでみたり、一緒に問題を考えてみようと K を誘いますが、最初に数文字読んでほめてすぐ諦め、1 文字書いてはやめたと行って、なかなか親の思う通りには行かず苦戦する毎日です。他の親御さんの自宅での過ごし方を分かち合いで拝読しておりますが、丁寧な生活や工夫を凝らした生活を送られていて自分を恥ずかしく思っています。私といえば、仕事がある日には夜遅くなってしまったり、仕事がない日にたまに一緒にお菓子や料理を作っても、上手にできずにかんしゃくを起こしてしまったりイライラしてしまい、「すぐ泣かない！泣くなら〇〇しないよ！」なんて言葉掛けをしてしまうことも。。園長先生の仰るように、静かに見守る。こちらが落ち着くということを変えて思い直さないといけないなと、終わってからいつも後悔しています。分かち合いを読んで、自分を恥じると共に、また心新たに丁寧な寄り添った子育てをしないといけないなと思い直しました。ありがとうございました。～（略）～

○いつもお世話になりありがとうございます。この大変な中毎日子供を預かって頂き本当にありがとうございます。3 月から突然当たり前だと思っていた生活が当たり前でなくなり家族 3 人の生活リズムが変わり息子はきっと戸惑うだろうなあと感じていましたが、動じる事なく与えられた環境に溶け込み生活している姿を見て逞しくなったなあと成長を感じました。逆に私達夫婦の方が戸惑いがあったように思います。私達夫婦の仕事の関係もあり毎日幼稚園に行かせて頂き、仕事をさせて頂き本当に感謝の気持ちでいっぱいです。先日の園だよりに園長先生が書いてくださっていた、たどり着いたのが命よりも大切なものはなかったという言葉がずっと胸に残っています。何を信じて生活すれば良いのか、自分はどの行動すれば良いのか迷っていた中、私の気持ちが沈んだり、イライラしたりすると連動する様に息子もほんの些細な変化ですが現れます。そんな自分にまた落ち込んで良くないサイクルから抜け出す事が出来ない事もあり、私が仕事をしているからダメなのかなと思う日もたくさんありました。そんな中確かな事が全ての命を守るため、私は、私達家族は与えて頂いたこの環境に感謝して自分達が出来ることをしようと勇気づけられ当たり前でなくなった生活から逃げず頑張ろうと思えました。当たり前にあった生活は沢山の人の支えて頂き送れているんだと、当たり前のように思っていた給食も自分でお弁当を作って持って行く事でその支えの大きさに気がつきました。でも息子が毎日メニューをリクエストして毎朝楽しみに起きてきてくれる姿に私が作る事の大切さも教えてもらったように思います。どんな事にもありがとうの気持ちを持って生きて行こうと思ってもなかなか現実には忘れてしまう日も多いと思いますがこの経験を忘れずにこれから与えられる環境を進んで行こうと今は思っています。全ての命を守るため。皆さんの様な分かち合いではない様な気がしますが、聖母幼稚園に通う園児のお母さんの一人になれて本当によかったです。

(園長より)

今日は、医療関係にお勤めされている、お母様方の分かち合いです。今回、お家で色々なことを我慢して頑張って親子で過ごしていた家族、この大変な中、お仕事に行かなければならなかった家族・・・とその両方の思いに触れることになりました。「命を守るため」に、取るべき行動は、置かれた立場によって、違うということも学びました。私は幼稚園にいて、どんどん自粛が進む中、ご協力くださるご家庭も増え、子どもがどんどん減っていく時がありました。医療関係の方の子どもたちが、だんだん不安にならないよう、大切なお仕事をしてくださっていることを話したことがあります。すると、その子は、「うん。わかってるよ！ぼくのおかあさん、命を守っているんだ！」と話してくれました。どんな時も、子どもは、真実を見る「目」を持っています。一生懸命、大人がすること、話すこと、悩んでいること、迷っていること、選んできめたこと・・・このことが、真実であるなら、子どもはちゃんとわかってくれますよね。きっと。だから、私たちは、大人なんだ！親なんだ！と鎧を着ないで、そのままの自分、真実の自分であることが、一番の子育てなのかもしれませんね。「子どもは親の背中を見て育つ・・・」なんて、よく聞きますが、本当にそうかもしれませんね。